

地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	オアシスの理念 ・主体的な決定の尊重 ・安らぎと自信を感じる生活 ・地域社会の一員としての生活	会議等で施設長、職員と利用者本位のサービス支援と質の高いケアを目指して、心に寄り添い、付き添うケアを皆で話し合いを行っている
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	家庭的な雰囲気の中で利用者の一人一人の個性が生き、それぞれの生活リズムに沿ってその人らしい生活を支援し、心に寄り添うケアに取り組んでいる	オアシスでの介護理念を、家族・外部の方に一目で分かる様に掲示している ①私達は尊敬と自尊心の尊重に心掛けます ②安らぎと安心感を持てる生活を支援します
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	民生員、福祉員、婦人会等のホームへの見学、研修を行ったり、オアシス日より、お楽しみ綴り等を見ていただいている	住み慣れた地域で慣れ親しんだ人に、いつでも会える環境作りを行っている ホーム側から自治会に加入している
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入所者と共にホーム隣近所の散歩、散策しながら、顔馴染みを作りボランティアでホームへ立ち寄っていただき、交流を計っている（花植え）	日常生活の中で挨拶等をとおして、顔馴染みの関係を作っている。地区の夏祭り、秋の大祭などに参加している
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	納涼祭、福祉祭、地域の夏祭、飫肥城下祭、発表会等への参加をしている 園児とのふれあい、お便り交換等実施	ホームのお便り・お楽しみ綴り等を見ていただいて、日常の暮らし振りを知ってもらっている ホームでの納涼祭行事等に、地域の方々、家族を招き、交流を計っている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の方々、1人暮らしの方をホームに招き、料理講習等を通して、食についての勉強会に取り組んでいる（年に4～5回）		在宅の高齢者の方々と食について学び、利用者がどのような生活をされているか、交流を計っているヘルパー1級・2級、看護師、福祉専門学校生の実習を受け入れている
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	利用者が主役で安心して快適な生活が続けられる様、サービスの質を高める為、よく見て、良く聞いて受容し、「利用者本位」の生活できるようにしている		評価の内容、結果を全職員に周知させ、今のサービスの良い所、悪い所を皆で話し合い、改善していくよう取り組んでいる
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	1年間テーマを掲げ、メンバーもテーマに応じた方々に参加をいただき、地域の方々、家族、行政を交え、意見等を共有しながらサービス向上に活かしている		地域資源の力を借り、認知症ケアの実践を地域へ伝え、共に支え合いを生かしながら地域に開かれたホームを目指している。今後の運営推進会議の年6回の取り組みを決めている
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険係、市包括支援センターの担当者との情報交換、運営推進会議等に参加して頂き、意見交換・相談しながら共有している		ホームの事業所にとって、重要な存在であるホームの実情やケアサービスの取り組みを伝えながら協力関係を保っている
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会へ講師を依頼し、成年後見制度及び権利擁護を学び、家族の方々へ説明出来る様、パンフレットなどを常に事務室のカウンターに設置している		市の担当の方から講義を受けた事などを家族の方々へも情報の提供を行っている
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護技術の研究と研修に積極的に参加し、「身体拘束禁止」を実施している 利用者の「人権の尊重」優先した処置を行っている		すべての職員が正しく認識しており、「虐待」「拘束」しないケアを実践している おむつはずしを実践し、トイレ誘導を行っている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約を説明し、家族の方が十分に理解され納得された上で印鑑を頂いている	重要事項説明書、契約等に権利義務を分かりやすく明示している 終末ケア等を文書にて家族から同意書を得ている
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の心に寄り添い、付き添いケア、その人らしく自然なケアの中で話をしながら、意見を引き出す工夫をしている	家族が面会に来訪された時は、心身の状況や日頃の生活ぶりを伝え、意見や希望を出していただいている
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会、ケアプランの見直しには来園していただき、通院の経過（健康状態）、日常の暮らしぶり等を報告している	お金をお預かりして、おむつ代、パット代など領収書・請求書を家族に確認していただき、確認印を頂いている（トラブルなし）
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱を用意しているので、無記名で投函をお願いしている	家族やホームに見えた時は必ず声かけし、入居者の状況や気軽に伝えたり、相談できるようにしている
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等月1回（3～4時間）で施設長から色々な意見や、提案を話され職員との意見交換を行っている	会議等で介護で大切な事や基本的な考え方を話し合っている。又、無記名で意見箱に投函できる様に投函箱を設置している
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	希望の休み等を導入し、勤務調整に努めている	スタッフの意見を言える雰囲気を作っている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者スタッフが共に生きるをモットーに移動や離職はあまりない		施設長、管理者が現場職員の考え方や意見を聞く耳を持ち、日頃から意見交換を行っている
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等は交替で参加させている 介護福祉士その他の資格を1人1人に自覚を持たせ、勉強会等を実施している		<ul style="list-style-type: none"> ・ 接遇技術の向上 ・ 専門知識の習得をする様に努めている
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県南ブロック研修会を当施設で行い、各施設より50名位参加された 第1回 食について(実践を兼ねて) H18. 7. 12 第2回 終末ケアについて (H19. 7. 7予定)		グループホーム同志の相互研修等にも取り組んでいる。入所者・職員・家族にも共有してもらう為に、ビデオもある。5月26日のグループホームの総会でも発表した。家族にもホームでの感染症の取り組みについて実践している事を伝えている
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	健康について ケアについての悩み、家庭での悩み等を良く聞いてあげ、気軽に相談される様な体制を作っている		健康増進を図る為 定期的健康診断や腰痛防止対策に努めている 各自のストレスや背景を良く理解している
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員1人1人の良い点を評価し、適材適所の役職を付け、やる気を引き出し責任を持たせている		指示待ち人間を作らない為に、自分のやるべき仕事を分かりやすく、一日の流れのマニュアルを作成し、時間帯に添って(写真、時間帯)遂行できる様に作成した。又、入居者の行動、観察力が重要。他の職員の仕事も理解出来る様にした。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人との面接の際に安心感を与えるようにコミュニケーションを計りながら、困っている事、不安な事を聞くようにしている	本人の状態を確認した上で、ホームの生活が楽しい所である事を、一日の流れの写真やお楽しみ綴り等を見せたりして、理解してもらい、信頼してもらうよう努めている
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホームへの見学等を促し、困っている事、不安な事を率直にお話しされる様に施設長、管理者、介護支援専門員が対応している	家族が求めている事の話し合いを持ち、又、利用者が主役で安心して快適な暮らしが続けられる事を、当園での皆さんのスナップ写真等を見てもらい説明し、信頼してもらうよう努めている
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設サービス計画書の作成 自立支援を目標としたケアプランを作り、その人らしくその人が望む暮らしが実現できる様なサービス支援を目指している	普段の本人の状況や暮らしぶりを聞き、家庭とあまり変化がないように、スムーズにホームの生活にとけ込めるように援助していく
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	残存機能を発揮できる様に、無理なく本人が持続できる様なサービスを家族と相談しながら取り入れている	よく見てよく聞いて入所者の望む事を受容し、生活の中でできる限り役割を持っていただき、生き甲斐につながるように支援している 慣れ親しんだ品々を持参していただき、安心感を与える様に努めている
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の料理、季節ごとの行事、野菜作り等の知識を出して、教えてもらいながら、一緒に作付け・収穫できる事を喜んでいる	らっきょ漬け、梅漬け、竹の子の料理、昔なつかし料理、団子作り、畑作り（なす、ピーマン、トマトなど）縫い物、手遊びなどを支援している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	食事を一緒にしたり、戦争体験談、回想法を取り入れている		家族がいつも気軽に来やすい雰囲気を作っている <いきいき脳体> 計算ドリル、塗り絵、迷路、歌、工作など
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームでの行事等に参加してもらい、共に楽しんでもらう ・面会時にスナップ写真をとり、部屋に飾り思い出してもらう ・アルバムなどを居室に掲示している 		お誕生会、納涼祭、フラワーフェスタ（宮崎）見学、父の日・母の日感謝の集い、クリスマス、敬老会、朝市などに家族と共に交流を計っている
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・古里訪問、声の便り ・回想法を用いている ・通信交換（年賀状、暑中見舞いなど） 		墓参り、ドライブ、つわとり、竹の子とり、梅ちぎり、栗拾いなど
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う馴染みの関係を作りあげ、頼り頼られると言った精神的な面での支え合いが生まれる事を支援している。愛称の良い方とコンビを組ましている		食後の後片付け、食器洗い、掃除、ドライブ、畑の草取り、収穫祭など
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者の入院の為の退所に際しては、家族との話し合いで部屋代のみをいただいて、部屋を確保しておき退院時は、再利用できるようにしている		家族からの相談、近況を聞いたりしてアドバイスをを行っている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの身体的、精神的な状態を全職員が細かく把握し、その人が望む暮らしが実現できる様に、利用者の立場に立ってサービスを配慮している	入居者の方に生き生きとした笑顔（喜び・楽しみ）を持ってもらえる様、一人ひとりに合わせた声かけ、スキンシップを心掛けている
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活の中でできる限り役割を持っていただき、生き甲斐を共に見出す様に努めている。分担表を作成し、掲示している	一人ひとりの生活歴に関する情報を本人と家族、その人の昔を良く知るひとから教えてもらっている。趣味や以前の暮らしの中に活かし、その人の力を発揮してもらう様にしている。昔の写真を持ってきてもらい、アルバムを整理している
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	馴染みの人間関係を維持しながら、1人ひとりの利用者がその人らしく暮らし続けられる様、家庭的な雰囲気の中で利用者スタッフと共に生きながら、支援に努めている	ホームでのお楽しみ綴りを作成している。入居者が言葉では十分意思表示できなくても、表情や全身での反応をキャッチしながら、本人の好みや希望、好みを把握し支援している
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人らしさ、その人の暮らしを支えていける様に、利用者自身の生活の視点を当てたアセスメントに基づき、自立に向けた支援計画を作成している	月一回の職員会議の中で検討して、ケアマネジャーの指示のもとに、それぞれの入所者担当職員を中心に職員全員で考え、毎日の中で実践可能なケアプランを作っている
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しを介護支援専門員が、施設長、ケアスタッフ、家族と話し合い、暮らしの中で心身の力の発揮、その人にとって安全、健やかさを計画作成している	カンファレンスを行い、本人の状態、生活歴、希望等を把握して、個々の特徴をとらえた介護計画を作成している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントに基づいて、入所者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作り、それに添ったサービスを行っている		一人ひとりのケアプランの作成と実践及び、モニタリング評価を行っている
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	べんとうサロン（老人宅配事業）、ケアホームのオアシスサロンにて交流の場を設けている。		地域の方との料理講習会、お茶会、生け花などに参加する
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	日南市の中心地にあり、左記の地域資源は2～500mの範囲内にあるので、推進会議に参加していただいている。（市役所、警察、消防、文化センター、公園、保育園など）		文化祭、福祉祭り、園児とのふれあい、芸能祭の見学、生涯学習見学などを家族、ボランティアと共に交流を計っている
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用を考えている人達にホームの情報や様子を発信してもらう窓口として、他のセンター等と連携を図っている	○	貸し出しベット、ポータブルトイレなどを設置する予定
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度、権利擁護制度の仕組みを市包括支援センター（社会福祉士）に依頼し、勉強会を行った。運営推進会議に参加いただき、助言していただいている		身元引受人の方が相談に来園された時は、施設長、管理者と話し合いを持ち、市包括支援センターの担当者にアドバイスを受ける様にしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	夜間、日中における24時間連絡体制が確保できている。定期健康診断の実施。かかりつけ医と看取りまでの往診の了解が得てある		医療機関が受け入れやすくなる様に入所者やケアに関する情報提供やホーム側でできる協力を家族と相談しながら行っている
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・受診時間の配慮 ・優先的な診療 ・必要時の往診等の確保 		認知症の受診の困難さを理解し、受診しやすい様に配慮してくれる医療機関を確保している
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師はいないが、かかりつけの看護師、薬剤師に相談している		かかりつけ医、看護師等と連携を計り、アドバイスを受けている
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	長期の入院になると、認知症が別人のように進行するので、早期に退院できる様に、医師、病棟、婦長等に密にして情報交換を行い、ホームでの生活リハビリ訓練に努めている		環境の変化には気をつけ、退院時のサマリー等を活用し情報交換を行っている。退院時はいつもの所、顔馴染みの皆さんの所に帰ってきた安堵感で、入所前の本人になれる。ホームでは生活の中のリハビリに努めている
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアについて、本人、家族と話し合いをもち、かかりつけ医に相談（往診等）し、本人、家族等の同意を得ながら、看取り介護を実施する体制を作っている		終末ケアには家族と共に看取り介護を行う（食事介助、排泄介助、清拭等）
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医との連携強化を計り、利用者の重度化、終末期に対応する為、スタッフの学習会を実施し、資質の向上を行っている		<ul style="list-style-type: none"> ・終末ケアまでの食事の取り組み ・オアシスでの介護食の取り組み ・看取りについて考える 7月7日県南ブロック研修会にて”終末ケアの看取り”というテーマにて学習する予定

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	居室変更前には、ご家族・本人に十分な説明を行い、本人納得の上で変更したい。理解できない人については、家族の了解をもらっている		現在は住み替えの希望はないが、アドバイスとして今までの身体状況、生活のリズム、問題行動等を情報交換したり、医師からの意見を聞くことが重要
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家庭的な雰囲気の中で利用者一人ひとりの個性が生き、それぞれの生活リズムにそって利用者の「人権の尊重」を優先している		外出の際は鍵を施錠して安全な環境に心がけている。排泄のカーテン、脱衣所の間仕切りなどを設置している
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の要求を受容して生活の中でできる限り、役割を持っていただき生き甲斐を共に見出して支援している		趣味、嗜好などの自己決定を尊重している ドライブ、買い物、カラオケ、墓参り、花植え、縫い物、歌などの支援を行っている
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の心に寄り添い、付き合うケア、その人らしく安らぎと安心感を持てる生活を支援している		・昼寝、本読み ・散歩、畑の草取り、おしゃれ（カット）等、外出の楽しみを持たせている。その事により生き生きとした表情が見られる
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・自分で着たい洋服を選ばせている ・散髪、カットは行きつけの店から来ていただいている		毎朝、女性はお化粧の時間を設け、化粧を行っている。（化粧水、乳液、ファンデーション、頬紅、口紅等）男性はひげそりを実施し、一日のスタートに心身のリフレッシュを図っている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者・スタッフと共に料理を作ったり、盛り付け、後片付け、食器洗い等を行っている		一人ひとりの分担があり、おしぼり、お茶の配布、テーブル拭き等、楽しみながら行っている。自分の食べた物は自分で下膳することをモットーにしている（入所者・職員も）五感を生かし、楽しむ食事に配慮している
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎週日曜日は、利用者の好きな食べ物を一人ひとり意見を聞き、買い物し、皆で料理している お正月はお屠蘇、夏は納涼祭でビールを出している。たばこは入所時より禁止		畑から取ってきた野菜は、その日のうちに献立にとり入れる。料理に合った食器を使用し、目で楽しんでもらう。旬の食材をとり入れ、季節感を味わってもらう。一人ひとりの栄養管理に努めている（治療食＝鉄欠乏食、腎臓食～栄養士が管理している）
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中は綿パンツに変え、トイレ誘導にて排尿・排便介助を行っている 本人の希望により尿とりパットを使用している方もいる		トイレ誘導する事により、尿意、便意等の訴えが見られる様になった 身体機能、脳の活性化（ADL拡大）につながっている
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日でも入浴希望があれば入浴していただいている。原則として1日置きに入浴する		入浴後は、チェック表に本人が○印をつけることにより、入浴の意識付けがいき、入浴を嫌がらなくなった。見守りしながら自分で洗える所は洗ってもらう等、残存機能を生かした支援をしている
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	原則として午後は1時間位（15時まで）昼寝の時間。眠たい時に休憩出来る様に、畳・マットにて枕・毛布等を準備している。		各居室に戻ろうとせずに、皆が見える範囲内で、休む事で精神的に落ち着くのか、ぐっすり休息をとられている。利用者一人ひとりの身体的、精神的な状態に応じてぐっすり休息をとらせるのが一番だと思う
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	脳の活性化を図る”脳いきいき体操””なつかしい歌”を毎日歌う 若い時の家族の写真のアルバムを見て楽しんでいる。役割分担表を作り、自分の仕事に積極的に参加している		<ul style="list-style-type: none"> ・いきいき脳体操（計算ドリル、塗り絵、迷路、豆はさみなど） ・昔の若き頃の歌 ・童謡を合唱など ・ドライブ・買い物・トランプ・ジェンガ遊び


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物、お祭り等に財布を持たせ、500円位自分の好きな物を選んで買い物指導を支援している</p>		<p>時々、現在のお金がわからない時もあるので、お札を見せて説明している</p>
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>外出にての気分転換を計るため、ドライブに出かけている</p>		<p>古里訪問、つわとり、竹の子堀、畑の草取り、野菜の収穫、買い物、緑の多い所（森林浴）などを実施している</p>
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>行事等で家族と共に楽しむ様に、連絡し参加していただいている</p>		<p>ホテルでのバイキング料理（父の日・母の日） フラワーフェスタ見学 ファミリーレストランにてお茶会 串間森林祭見学</p>
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>交流を計っている園児達からのメッセージカード、家族からの年賀状・お便り、子供達からの声の便りがある</p>		<p>現状報告を兼ねて、年賀状・暑中見舞いを家族へ出している。園児との手紙の交換も行っている</p>
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>面会・お見舞いに来ていただいた時は、お茶をお出ししてゆっくりしてもらい、昔の事や近況を話してもらっている</p>		<p>知人、友人、家族の方々が見えると必ず、スナップ写真を取り、アルバムにとじている 面会簿に記入していただいている</p>
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>原則として「身体拘束」禁止としている 介護技術の研究と工夫に取り組み、身体拘束ゼロを目指している</p>		<p>利用者の「人権尊重」を守り、生活環境の整備を図っている</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入所者が外に出て行きそうな場合は、止める事ではなくさりげなく声かけ、一緒について行く等、安全に配慮している		外に出る行為の気配を感じたら、見守りを職員同士の連携プレーにて行っている 徘徊が見られる時間帯（17時）に皆で自分のアルバムを見たり、お茶等を実施している
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入所者の動きや常に見守りやすい場所にて、一人ひとりの位置の様子状態を把握している		スタッフの一日の勤務体制 (基本マニュアルに添って遂行している) 夜間は各居室の見廻りを行っている
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物などの注意の必要な物品については、指定の保管場所に厳重に保管している		危機管理マニュアルを作成し、適切に保管に努めている危険物（ライター、アルコール、石鹸等）はロッカーに鍵をかけている
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起こった場合、ホーム全体の課題としてとらえ再発防止を図り、すぐに対策の話し合いを持っている		職員全体で”ヒヤリ・ハット報告書”をとり入れ、マニュアル作成している 事故が起こった場合、事故発生の状況を正確に伝え、職員全員で対策法改善策を話し合い、再発しない様に改善につなげている
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が内容や流れを把握し、連絡網の体制を掲示している		家族との連絡網体制作り 応急手当講習会（救急救命士）を依頼し、勉強会を行っている（AEDの使い方、異物除去等）
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日頃から、避難訓練を行っている イ) 消火器を使って火を消す ロ) 入所者を非常階段からの誘導		防火マニュアル作成 職員連絡網、役割分担掲示 地域の方々へ運営推進会議等をお願いしている 頭巾、ヘルメット等を用意している (各階のロッカーの上)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	身体機能の変化、問題行動等を介護計画書にあげ、家族に説明している。		家族が来訪された時は、心身の状況や日頃の暮らしぶりを詳しく伝えている
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入所者の体調に変化が見られたら、かかりつけ医に報告し、往診及び診察を受け指示を仰いでいる 急変時では県病院に救急車で搬送している		バイタルチェックを朝昼夕測定し、変動がないかをチェックしている 食欲・水分補給・便秘・顔色等を常に入所者の状況を個別記録に記入している。夜間の状況報告書を介護日誌以外に一覧表を提出し、全員で情報を共有する
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入所者個人が服用している薬剤の治療目的、薬の用法はかかりつけ医の指示どおり、支援している。又、薬剤師を招き、勉強会を開いた。		介護に関わる全職員が把握している 副作用が見られたら状況の変化をチェック 顔色、食欲の低下、下痢、便秘等が見られたら、医師・家族へ報告している。薬のマニュアルを作成した。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入所者一人ひとりの生活の中で、食事・体を動かし、自然排便を促している		毎日水分補給チェック（1日1500cc以上） 便秘予防に繊維質の多い食品、乳製品を献立におやつに取り入れている 運動・腹部マッサージをとり入れている
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食欲の低下、口の中の出血や肺炎の感染症になる事があるので、口腔内の清潔保持に努めている 口腔ケア研修会に参加し、口の開け方などをとり入れている		歯磨き、入れ歯の手入れ、外出・帰園した時はイソジン液にてのうがいを支援している 夜間入れ歯洗浄剤につけておく 入れ歯調整を歯科と連携を行っている
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた献立を作り、1日の摂取カロリーや水分摂取量には、気をつけている。おやつにも強化食品を与えている		法人代表が献立作成に関わり、食については配慮がなされている。水分1日1500cc以上、夏は2000cc以上を目標にしている。腎臓食、貧血の方はレバーなどを付け合せている。嚥下・咀嚼の悪い方はきざみ食、飲み込みやすい調理。トロミ食等、その時に応じて対応している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対する予防・対策・早期発見・対応を全職員に学習を行っている 外出からのうがい、手洗いが重要であり、入所者・職員も実行している		感染症マニュアルを作成し、感染症研究員の峯松医師との勉強会を行っている インフルエンザ予防注射を必ず実施している 第一に手洗いが重要であり、入所者・職員も実行している
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は料理を作る時点で、材料をチェックしている 手洗い励行（入所者・職員）		調理用具、布巾、まな板は使用する前に熱湯・アルコール等で消毒し、食中毒の予防に努めている
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入所者にとって自分の家に代わる住み家として、家族・地域の方々がほっとする家庭的な配慮をしている		観葉植物・季節に応じた花々からパワーいただける様に、玄関周りなどに癒しのハーブなどを栽培し、環境づくりを大切にしている。入所者が自分で植えて、水や肥料をやったりして観察している
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所者の心は不安になりやすく馴染みの場所、安心感のあるその人らしく暮らしていく配置を工夫している 娯楽のコーナー、食事のコーナー、寝室を区別している		昔を思い出す馴染みのある着物・蛇の目傘等を飾り、家庭的な温かさをつくる様に努めている お茶をたてたりするコーナーも工夫している
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	毎日の生活の中で不安やストレスになりやすいので、思い思いに過ごせる居場所を選んでもらい、楽しく過ごしてもらっている		ソファのコーナー・畳のコーナーと思いいに過ごし、本を読んだり、縫い物、休憩されたりして、居心地よく過ごされる様に配慮している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきてもらい、その人らしく過 ごせる様な環境作りを工夫している		家族の写真、一番大切にしている品々、一番気に いっている洋服等をかけている いつでも掃除が出来る様にホーキ・ハタキを用意 している 家族からのメッセージカードを置いている
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	温度・湿度は入所者にとって体調不良になつた り、気分が落ち込んだりするので、一人ひとりの 状態を見ながら温度調節をこまめに行っている		各居室に冷暖房・換気扇・温度計をかけている
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	身体的機能の低下の防止に努めるケアを、全職員 が理解し、日常生活での訓練として入所者が有す る力を発揮しながら支援している		買い物、食事作り、野菜作り等、楽しみごとなど を日常生活の中にとり入れ、自然に機能維持出来 る様に支援している。タオル、手摺り棒を使っ て、筋力強化に取り組んでいる
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	入所者一人ひとりが残された力を発揮していける 様に、自信をもたらすだけでなく、心身の機能の 維持につながるよう、見守りしながらサポートし ている		一人ひとりの役割分担を持たせ、おしぼり配布、 湯呑み配布、料理の盛り付け、洗濯物たたみな ど、その人の力に応じた事をしてもらっている
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	玄関入り口の階段に利用者個人の名前のついた鉢 花を置いて楽しんでもらっている		近くの畑に出かけたり、色々な花々を植え、草取 りしたり、花々に朝・夕の水やりを入所者とス タッフでやっている。夏には涼を求めて日陰を利用 し、ソーメン流しを行っている。夏の夜長は屋 上でバイキングや花火を楽しんでいる

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ファミリーオアシスでは、特に「食」への喜び・楽しみに関心を持たせるように心がけ、満たされる事で食への不安をなくし、安らかな心地になっていただく様にしている。

取り組みとして、特別食（腎臓食）から欠乏食（貧血）に至るまで、薬より口からをモットーにおやつでも栄養補給しております。

毎朝の味噌汁のだしにも、鉄・カルシウム強化のかつを風味のだしの素・蛋白強化食品プロテインパウダー等のサプリメントを使用している。すべて栄養士が管理している。